

年末年始をまたぐ工事の注意点

窃盗・降雪・凍結…休み中のリスクに備えよ！ お正月の建築現場は危険がいっぱい

新築やリフォームの工事で年末年始をまたぐ場合、施工業者も休暇に入るため工事途中のまま長期間不在となります。この期間、現場でもっとも注意すべきことは事故のリスク。なかでも、**ウッドショックによる木材の高騰、給湯器やトイレなどの住宅設備機器の大幅な納期遅れなどにより、これらの“価値”が高くなっているため、転売目的で窃盗が起こることが懸念されています。**また、今年11月10日に気象庁よりラニーニャ現象の発生が発表され、一段と厳しい冬になることが考えられるため**凍結や降雪の影響で施工不良が生じる危険性も高いと推察。長期休暇になると何か起きても気づくのが遅れて二次被害が起きる事例もあります。**



ホームインスペクション（住宅診断）、マンション管理組合向けコンサルティングを行う“不動産の達人 株式会社さくら事務所”（東京都渋谷区／社長：大西倫加）は、**年末年始をまたぐ長期休暇中に建築途中の現場で起こりうるトラブルを回避すべく、休暇前後に行っていただきたいチェック点をまとめました。現場に任せきりではなく、ご自身でもチェックされたい方のご参考となるよう、これまで多くの現場経験を積んだホームインスペクター（住宅診断士）がプロ目線で重要ポイントを解説いたします。**

<年末年始休暇中、現場の事故リスクを防ぐ5つのポイント>

1. 休み中の警備、緊急連絡網の確認

長期の休みで多いのが**窃盗**。人気のない現場に侵入して、高騰している鋼材や木材、住設機器などを盗み出して転売します。巡回警備があるか、万が一の時には工事会社と連絡が出来る体制が整っているかの確認をしましょう。

2. 敷地内、建物内はきれいか

放火の危険性があるので、現場内は整理整頓が必要です。また、資材はブルーシートを被せておくことと窃盗の防止になるばかりではなく、雨や雪、霜対策にもなります。**木材・木製・紙製のものは濡れや凍結に弱く**使用することが難しくなります。

3. 休みの前には着手している工事は完結させる

工事を中途半端に止めている状態で降雨・降雪、凍結があると、例えば、基礎工事であれば**雨雪の水分で鉄筋やアンカーボルトが錆びてしまいます**。木工事では木材の変色や変形をすることがあり、長期に渡って濡れている状態が続くと施工不良となるケースも。

4. 休み直前のコンクリートの打設、モルタル左官、塗装など養生を必要とする工事は避ける

工事の後の低温・凍結は**ひび割れや剥がれ**が生じたり、コンクリートの場合は**必要な強度が得られず施工不良**を生じることにも。これらの不具合の補修は難しく、強度不足は工事自体をやり直すことになりま。低温が予測される場合は工事を延期するのがおすすめです。

5. 休み明けは工事を再開する前に現場の状況を確認

休み明けの現場は**休暇前の状態と同じかどうか、工事に不具合が生じてないかを確認**してから再開。問題があるにもかかわらず再開してしまうと、発覚が遅くなりその後の工事や引き渡しに影響を与えてしまいます。現場担当者が確認する前に再開してないか、また現場担当者が確認した結果を聞くようにしましょう。

▼詳細は当社 HP 内のコラムにて▼

<https://www.sakurajimusyo.com/guide/31132/>

■不動産の達人 株式会社さくら事務所■（東京都渋谷区／代表取締役社長：大西倫加） <http://www.sakurajimusyo.com/>

株式会社さくら事務所は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。第三者性を堅持した立場から、利害にとらわれない住宅診断（ホームインスペクション）やマンション管理組合向けコンサルティング、不動産購入に関する様々なアドバイスを行なう「不動産の達人サービス」を提供、54,000組を超える実績を持っています。

本件に関するお問い合わせは、お気軽に下記までご連絡ください。

株式会社さくら事務所

東京都渋谷区桜丘町 29-24 桜丘リージェンシー101

<https://www.sakurajimusyo.com/>

TEL 03-6455-0726 FAX 03-6455-0022 広報室：石原・堤・羽深 press@sakurajimusyo.com